

合理的配慮の事例

千早赤阪村

START

中学校

支援学級にて

生徒の実態

課題を行う際、周りの動きがきになり課題に集中して取り組むことが難しい。

- Before



- After



⇒ 衝立を置くことで周りからの刺激を少なくし、集中できるようになる

- Before



生徒の実態

50分間の授業で集中が持たない時や、休憩時間など自由に過ごすことができる空間が必要である

- After



⇒レールカーテンでリラックス空間と勉強をする空間をわける

⇒気持ちの切り替えや授業規律につながる

小学校A

・通常学級にて

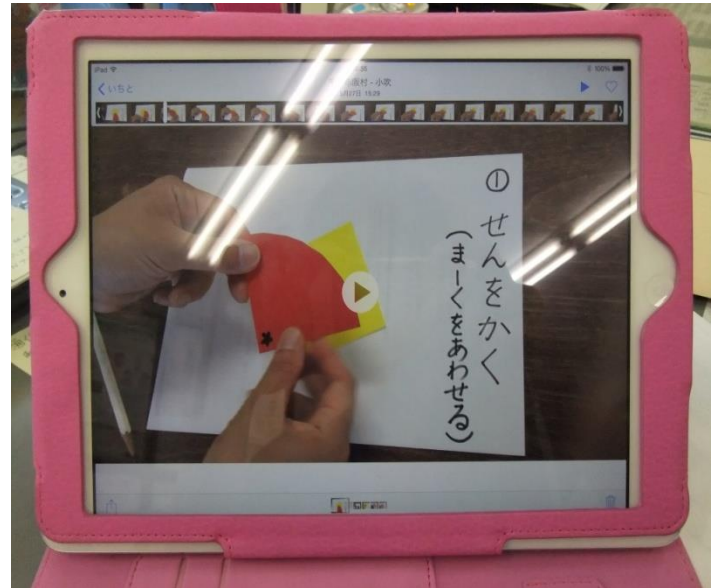
①



⇒うちわに絵を書き、当該児童が見て指示が伝わりやすいようにする

・支援学級にて

②



⇒タブレットを使って、手順書を作り、作業をするさいの視覚支援

小学校B

児童の現状	1年→1名	教室指導(介助員)
	2年→3名	2名国算なかよし教室指導 1名教室指導(介助員)
	4年→1名	国算なかよし指導
	6年→1名	国算なかよし指導

計 6名



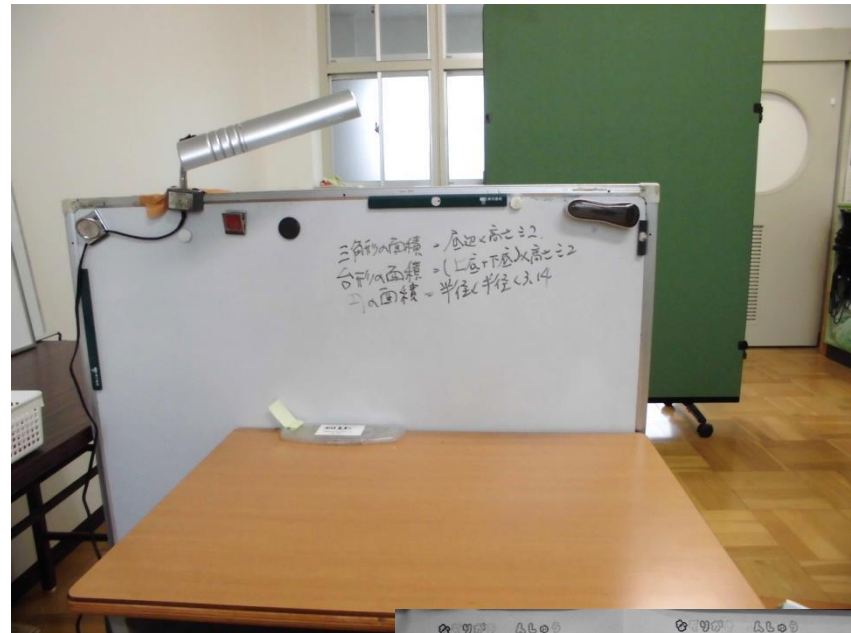
児童の実態

- ・弱視者
- ・自分の思いを上手に伝えられなかった場合など、**パニック**になる時がある。
- ・授業中も自分の**ペース**で行動を起すこともある。
- ・高学年が合同で授業する事が多い。2人揃うと**おしゃべり**などしてなかなか集中しにくい。
- ・落ち着いてきたが、まだまだ自分中心に考える児童もいる。
(年ごとに**落ち着いて**きている。)
- ・字を書くのが**苦手**(落ち着いた字が書けない等)
→本人は「字が上手になりたい。」と考えている。
- ・漢字指導時、書き順や細かなところが**書けない**。



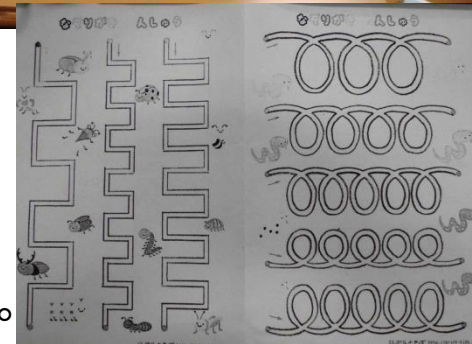
児童への配慮低学年

- ・教室では黒板を前にして横並び指導。教師を真ん中にし、両側に児童が座り両児童を見ながら支援・指導。
- ・落ち着いた環境(静か)で学習できるように、廊下側の窓を開けないようにしている。(低学年の声とか音楽の声など聞こえないようにするため。室内は空調で調整)
- ・スケジュールを伝えて児童が見通しを持って学習できるようにしている。
- ・時間の都合で教室で出来ない話等で、普段思っている事など自分の思いが伝えられるようにする。その中で児童の環境や様子をつかむようにしている。
- ・自分でできる事は声かけをする。(鉛筆は削ってくる。など)
- ・教室で学習し、遅れている部分をフォローする。
- ・気持ちが荒れている場合は、気持ちを落ち着けて学級に返す。



児童への 配慮高学年

- ・**ホワイトボード**を挟んで相手が見えない位置で支援・指導。
- ・目の前のホワイトボードには支援が必要な事などを**記載**しておく。
- ・廊下が見えないようにする事で**目の前**にだけ集中できるようにする。
- ・**ビジョントレーニング**で支援指導中。後に、書き写しへ移行予定。
- ・気持ちが落ち着かないときは環境を変えて**畑**仕事に行く。(気持ちの切り替え)
- ・気持ちが落ち着かないときは**パーテーション**した畳の上で、自分で時間を決めて休憩したり、話を聞いて気持ちの安定を図る。
- ・漢字は擬音等を使って書き方・覚え方指導。「たて、よこ、シューツ、**カックン**、点・・・」



合理的配慮の事例

千早赤阪村

END